

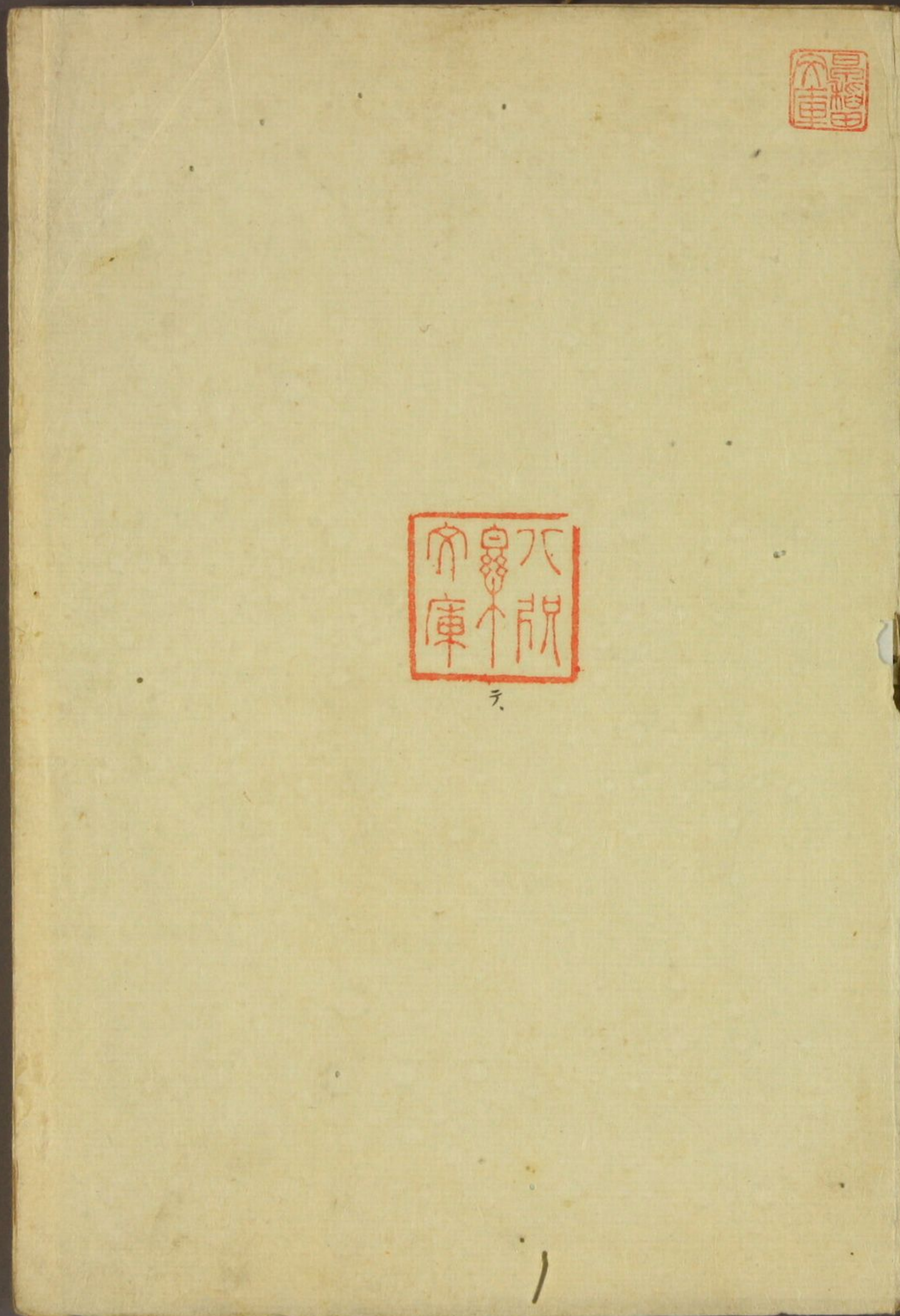


續  
眺  
望  
集



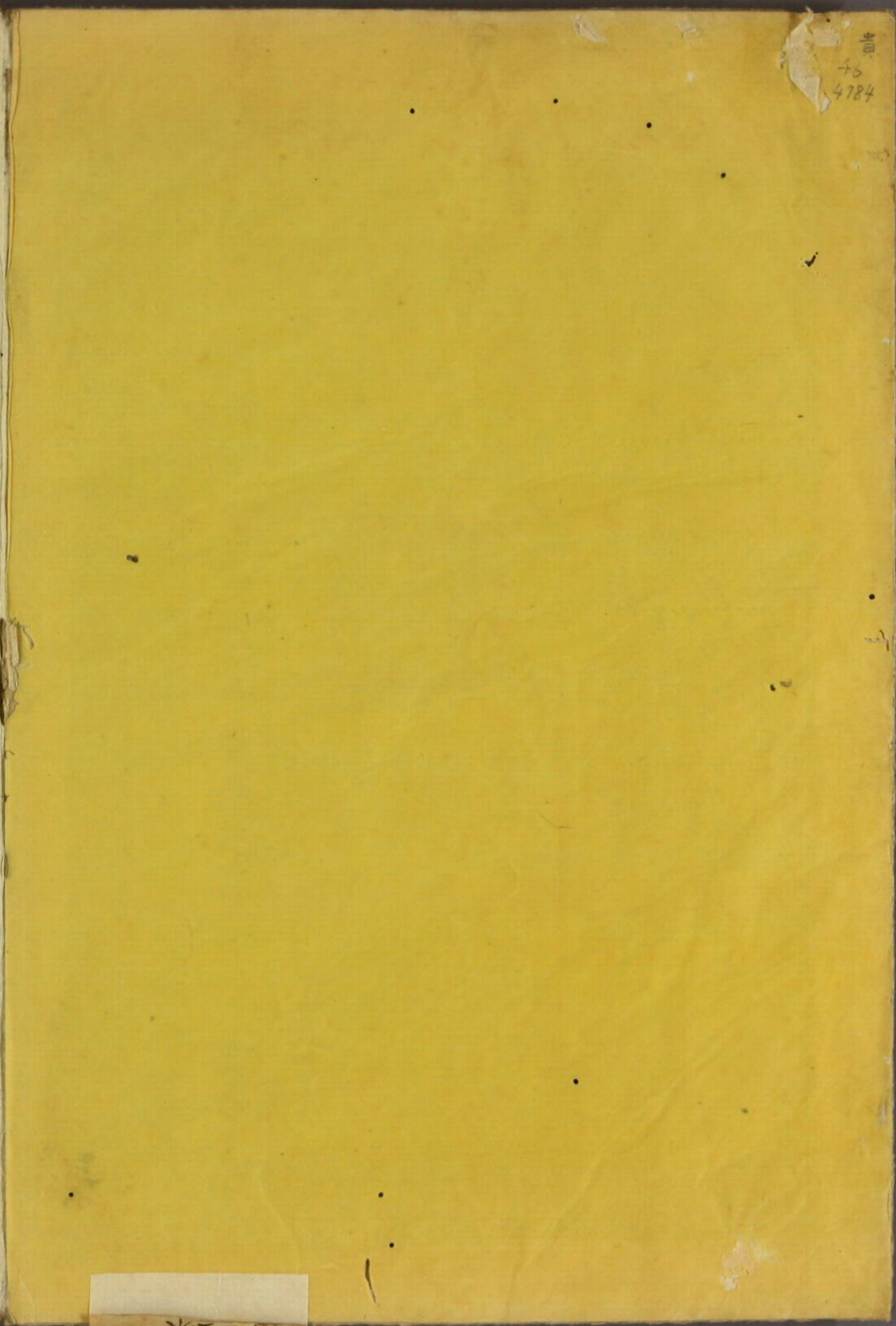
特別  
子6  
4784





天  
大  
規  
庫

天  
大  
規  
庫



書  
46  
4784

天  
大  
規  
庫



8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9

後醍醐帝

丙

御諱尊治人皇九十九代後宇多院第二皇子  
新後撰集玉葉續千載續後拾遺風雅新千載新拾遺集等御作者  
勅文載和論語應三年八月十六日於吉野行宮崩聖壽五十二

あはれなるまはるる  
のこころしむるものぞ

光嚴帝

冬夕

御諱量仁九十二代後伏見院第一皇子  
風雅新千載新後拾遺新續古今集等御作者  
貞治三年七月七日崩聖壽五十二

あはれなるまはるる  
のこころしむるものぞ

後光嚴帝

冬夕

御諱弥仁九十六代光嚴院第三皇子  
新千載身新拾遺新後拾遺新續古今集等御作者  
勅文載和論語應安七年正月廿九日崩聖壽三十七

あはれなるまはるる  
のこころしむるものぞ



後醍醐帝

丙

御諱尊治人皇九十代後宇多院第二皇子  
新後撰集玉葉續千載續後拾遺風雅新千載新拾遺集等御作者  
勅文載和論語曆應二年八月十六日於吉野行宮崩聖壽五十二

ふし可ぬさるりハキタカキキ  
のさるりしるのさる

御諱量仁九十二代後伏見院第一皇子  
風雅新千載新後拾遺集古令集等御作者

光嚴帝

御諱量仁九十二代後伏見院第一皇子  
 風雅新千載新後拾遺新續古今集等御作者  
 貞治三年七月七日崩聖壽五十二

冬夕

あらし吹あらし大いかに  
 けしきよわらわしきあし  
 冬

後光嚴帝

御諱弥仁九十六代光嚴院第三皇子  
 新千載集新拾遺新後拾遺新續古今集等御作者  
 勅文載和論語應安七年正月廿九日崩聖壽三十七

冬夕

あらし吹あらし大いかに  
 けしきよわらわしきあし  
 冬

後小松帝

御諱幹仁百代後圓融院第一皇子  
新續古今集新撰菟玖波集等御作者 勅文載和論語  
永享三年三月廿日御落飾御法諱素行智同五年十月廿日崩聖壽五十七

月並花

いふらなる花の心は  
木の君よちかこひの  
心

後柏原帝

御諱勝仁百四代後土御門院第一皇子  
御製表御集柏玉集アリ 勅文載和論語太永六年四月七日崩聖壽六十三

宇鶴祝

むらさきあまの  
ひらりひらり

後奈良帝

御諱知仁百五代後柏原院第一皇子  
勅文載和論語天文五年二月廿六日御即位弘治三年九月五日崩聖壽三十一

神樂

あはれあまの御心  
のうたをうたはせ給ふ

正親町帝

御諱方仁百六代後奈良院第一皇子  
勅文載和論語永祿三年御即位文祿二年正月五日崩聖壽七十

海邊霞

花のさかすまはひさし  
よりいふはあまの漢にせむ

伏見殿貞常親王

後崇光院第一宮二品中務卿  
文明六年七月三薨五十一歳贈一品後大通院少の記載扶桑拾葉

冬江  
風  
梅  
あ  
進  
な  
ら  
ふ  
身  
帯

八条殿智仁親王

陽光院第五宮一品式部卿  
寛永六年四月七日薨五十一歳号桂光院

澤  
の  
葉  
切  
あ  
ら  
わ  
る  
澤  
の  
葉  
麗  
し  
く  
梅  
は  
あ  
ら  
わ  
る  
花  
の  
色  
雅



高松殿好仁親王

後陽成院第七皇子元名濟祐  
寛永十五年六月三日薨三十六号永照院宮智仁親王  
惺和歌辞載扶桑拾葉

初雲

山は瀧のめたき道し後集あり  
と初雲のそ好仁

閑院殿直仁親王

東山院第七皇子一品彈正尹称秀宮  
号閑院宮寶曆三年六月三日薨五十歳

嶺上松

峯にゆる松のみとらもほろろ  
わふく子そめ陰はふり直仁

梶井亮胤法親王

贈一品貞常親王男天台座主  
永平十年六月八日入寂新撰菟玖波集作者号廬山載扶葉拾葉

夏草

心もくもくしるもくもく  
心もくもくしるもくもく  
心もくもくしるもくもく  
心もくもくしるもくもく

青蓮院尊鎮法親王

後柏原院第三皇子元名尊猷  
天文十九年九月三日入寂天台座主賢語載和論語

夏草

心もくもくしるもくもく  
心もくもくしるもくもく  
心もくもくしるもくもく  
心もくもくしるもくもく

妙法院覺亂法親王

貞常親王男天台座主  
天文十年正月廿六日入寂新撰菟玖波集作者

木枯

かきこりあはれ秋のふし  
なほ葉ふらふはれ風  
集

曼珠院覺恕准三后

後奈良院皇子元龜元年任天台座主  
天正二年正月三日入寂号金蓮院

新云

しほきぬこいしはるる  
いほのほふかやうはるる  
集

輪王寺尊敬法親王

後水尾院皇子明曆元年任一品天台座主  
延寶八年五月十六日入寂日光御門圭元祖

早柿

とけらるゝのふゝいゝちうゝゝかゝるゝ  
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
かゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

聖護院道興准三后

近衛殿後知足院房嗣公男三井長吏三山檢校法務  
新撰菟玖波集作者名文載御語新百人一首跋載扶桑拾葉集

九月盡

とけらるゝのふゝいゝちうゝゝかゝるゝ  
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
かゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

實相院增運准三后

同公男三井長史後花園院ノ御戒師  
新撰菟玖波集ノ作者

露中花

露中花のしるしは  
あはれなる御戒師  
のしるしはあはれなる御戒師

圓滿院仁悟法親王

後土御門院第三皇子道興准后ノ受法  
三井長史三山檢校賢語載和論語

薄滋

薄滋のしるしは  
あはれなる御戒師  
のしるしはあはれなる御戒師

仁和寺靜覚准三后

木寺殿邦康親王男後花園院御猶子  
文龜三年七月十五日入寂

毎朝

あまみく見けしはちうくはらひ  
はなをそけし乃わいりふちりしは  
静覚

大覺寺義俊准三后

近衛殿関白尚通公男  
初名禪意性守准后資

祝

家乃凡吹はるる金をさるる  
代のまかたふし義俊

勸修寺常信法親王

貞常親王男後土御門院之御猶子  
新撰菟玖波集作者

祝言

あきしを起いしはむ世れ海河  
重しはふふ歩地ふり起 常信

知恩院良純法親王

後陽成院第八皇子  
東照宮御猶子寛文九年八月朔日入寂

来虫

物ころよむ長きわたり  
より下りてあふまじし 常信





九條殿尚經公

關白政基公男關白左大臣  
享祿三年七月八日薨六十三号後慈眼院賢語載和論語

野分  
朝霞

儀乃神水  
朝霞

二條殿持基公

關白師嗣公男攝政關白太政大臣  
文安二年十一月三日薨五十六号後福照院  
新續古今集作者

嵐

風乃おとあ  
木のまことすまの秋  
持基

一條殿教房公

禪閣兼良公嫡男関白左大臣  
文明十二年十月五日於土列薨五十八号妙花寺  
賢語載和論語新菟玖波集作者

夏草

なほの野ふかき  
道の志を草  
教房

同 冬良公

兼良公男関白太政大臣  
永正十一年三月廿七日薨号後妙花寺  
新菟玖波集作者増鏡十卷著同序載扶桑拾集

冬雨

可憐いよち  
紫のふり  
冬良

三條殿公敦公

左大臣實量公男從一位右大臣  
永正四年四月八日薨六十九号龍翔院  
新菟玖波集作者

泥水

あつぬる水の江の泥れ水あまらる  
はよきぬをぬくはくろくそく奉  
公敦

西園寺殿實遠公

太政大臣公名公男左大臣  
明應四年十二月廿五日薨号後竹林院  
賢語載和論語新菟玖波集作者此所記之記録後竹林院在相府有之

あつぬる水の江の泥れ水あまらる  
はよきぬをぬくはくろくそく奉  
公敦

徳大寺殿公胤公

太政大臣實淳公男從一位左大臣  
大永六年十月十二日薨年

常都公

人徳の月夜に  
志のふ若とおはな  
て

今出川殿教季公

権大納言實富卿男從一位左大臣  
文明十五年薨五十九

海老  
も

秋の長は  
月さらかすむ

鳳栖院持忠公男太政大臣從一位  
大永五年三月十八日薨七十五

花山院殿政長公

鳳栖院持忠公男太政大臣從一位  
大永五年三月十八日薨七十五  
賢語載和論語

野草

手抄の草のふりかへて  
野の心子とてのあふれし  
草

大炊御門殿信量公

内大臣信宗公男從一位右大臣  
長享元年八月四日薨年六十六号深草  
賢語載和論語新菟玖波集作者

三月  
被  
月  
の  
心  
子  
と  
て  
の  
あ  
ふ  
れ  
し  
草

久我殿豊通公

太政大臣通博公男從二位右大臣  
天文五年六月三日薨七十八号志禪院  
新菟玖波集作者

夕露

夕に露のつらさ  
秋の風をしのぐ  
池のほとり  
通

中院殿通世卿

内大臣通秀公男從二位權中納言  
永正十六年十二月廿二日薨五十五

暮春

鳥居のあたりに  
春の風をしのぐ  
池のほとり  
通

三條西殿公條公

内大臣實隆公男正二位右大臣  
永祿六年十二月二日薨七十七家ノ集

三條西殿公條公

内大臣實隆公男正二位右大臣  
永祿六年十二月二日薨七十七家ノ集アリ  
扶桑拾葉ニ名文載四種

清夜

琴興

高山流水不應親  
只弄孤琴物外身  
月落夜闌興無極  
此間恨欠辨絃人  
公條

三條西殿實枝公

右大臣公條公男正二位内大臣  
天正七年正月廿四日薨六十九家集アリ号江東遊士細川幽齋法印ノ師ナリ  
扶桑拾葉ニ載名文賢語和論語ニ載此公記錄三光院内相府記

曉春

之  
多  
乃  
實枝

飛鳥井殿雅親卿

梅風

神のひかりをくみし  
花のやうなうらな  
風親

贈大納言雅世卿男正二位推大納言号下殿  
延寶六年十二月廿二日薨七十四  
亞槐和歌集三卷下義政公和歌師方新菟玖波集作者賢語載和論語

飛鳥井殿雅康卿

冬神祇

さよふけえさうさ  
あはれありとさ  
雅康

雅世卿二男正二位推中納言法名宋世号二樂軒  
ののつとく関東海道記載扶桑拾葉新菟玖波集作者

令泉殿為秀即

推中納言為相卿男從二位推中納言  
應安五年六月十二日薨六十一



冷泉殿為秀卿

權中納言為相卿男從二位權中納言  
應安五年六月十一日薨六十一  
風雅集新拾遺新後拾遺新續古今集等作者

月

少げそくはくせきし月氣よ  
この世のけふは河の橋たがふ為秀

下冷泉殿政為卿

權大納言持為卿男正二位權大納言  
大永三年九月廿一日薨七十八  
家集八碧玉集ト云三五集ノ其一也賢語戰和論語新菟玖波集作者

敬雪

神乃ふくまゆゆふふゆゆ道の  
草もも木もも色ももぬ雪のハ政為

日野殿内光公

准中納言政資卿男  
太永七年二月十三日薨贈左大臣三千五  
武畧達人賢語載和論語

軍中雷

多思の老史のきこふ心  
の香好中  
ふみそ心ふみふみ  
と約らん由見

日野殿庶緑光卿

従一位准大納言資世卿男従一位大納言  
大永四年八月廿四日薨八十四号謙德称武者小路  
賢語和論語新菟玖波集作者

南薰

秋風よ花はほこひらふ  
野とらうらふ  
あはれにふゆか  
観

鳥九殿光廣卿

准大臣光宣公男正二位准大納言  
寛永十五年七月十三日薨六十

家集、黄葉集賢五言或和論語名文十三種載夫家合葉集

鳥九殿光廣卿

准大臣光宣公男正二位推大納言  
寛永十五年七月十三日薨六十  
家集八黄葉集賢語載和論語名文十三種載扶桑拾葉集

一多云乃  
禪室手  
山  
之  
物  
持  
臨  
心  
之  
入  
其  
心  
之  
廣

甘露寺殿親長卿

右大辨房長朝臣男從一位推大納言  
明應九年八月十七日薨七十七  
記録推大納言親長記アリ新菟玖波集作者

反下  
早苗  
民  
之  
心  
之  
廣  
親  
母

甘露寺殿元長卿

大納言親長卿男從二位權大納言  
大永七年八月十七日薨七十二  
元長卿記了賢語載和論語新菟玖波集作者

由馬  
連書

由來しり言し海邊てりる鷹  
存くよ心より里と教へるまじ元長

中御門殿宜胤卿

大納言明豊卿男從一位大納言  
大永五年十一月十七日薨八十四  
記録八宜胤卿記了賢語載和論語新菟玖波集作者

承胤  
權心

承胤心しり言し海邊てりる鷹  
存くよ心より里と教へるまじ元長

鷲尾殿隆康卿

参議隆頼卿男正二位權中納言  
天文二年三月六日薨

記録之二水記上云賢語載和論語新菟玖波集作者

鷺尾殿隆康卿

参議隆頼卿男正二位権中納言  
天文二年三月六日薨  
記録ヲ二水記ト云賢語載和論語新菟玖波集作者

冬野子  
かきみわなまきいほゆそん隆康

姉小路殿基綱卿

参議昌家卿男従二位権中納言飛騨國司  
文龜四年四月十三日於飛騨薨六十四  
志らるるの日記載扶桑拾葉新菟玖波集作者

冬野

富士の嶺より多うつき東風好や  
あしけそよまきおのあやみれ春總

富小路殿俊通卿

正五位下通治男宮内卿從三位  
三源一覽序載扶桑拾葉集新菟玖波集作者

歡喜  
信受

法然のこころは  
あはれなり  
後通

綾小路殿俊量卿

中納言有俊卿男正三位推中納言  
永正十五年七月十日薨六十八  
賢語載和論語新菟玖波集作者依靈夢於比叡山拜見弥陀來迎也

更志

あはれなり  
の例と  
俊量

薄殿以量卿

從三位攝以盛卿男從三位刑部卿  
明應五年十月九日卒六十一氏長者賢語載和論語

薄殿以量卿

從三位橘以盛卿男從三位刑部卿  
明應五年十月九日卒六十一氏長者賢語載和論語

夜橘  
重光  
又  
昔  
橘  
抗  
橘  
抗

豊原紘秋朝臣

正四位下筑後守冷倫歌道八道遥院實隆公之高弟家業八  
後柏原帝之爲御師範所  
著體源鈔二十卷雪玉集三紘秋悼一首アリ

春  
草  
經

春  
草  
經  
の  
口  
々  
子  
秋

晚香集小志と和歌四天と云々和歌雅俗律に曰三條西之光院殿乃作 上畧 四天玉と云々の

と云々の和歌抄集と兼好兼光運と云々 院ももも色紙形繪と云々のと云々の

押あふそのふの世と云々入道書と云々の

續千載集 月やふふと云々ののやと云々のの氷と云々のの明と云々のの香 和歌

風雅集 清い水と云々のの草の香と云々ののやき浦風と云々のの海と云々の

新撰古今集 多岐の香と云々のの香と云々のの香と云々のの香と云々のの香と云々のの香と云々の

新撰拾遺集 多岐の香と云々のの香と云々のの香と云々のの香と云々のの香と云々のの香と云々の

又同書と曰兼好と和歌と平中と云々の和歌と云々の又景氣和歌と和歌と云々のと云々のと云々のと云々の  
佛心と云々の和歌と云々の兼好と云々のと云々のと云々のと云々の 下畧



頓阿法師

略系述前篇

秋

少く見山あるものいれいほるん  
河原へけてもろく朝きり  
響

浄辨法師

同

杜江象

やまのうへに  
我がまもりす秋のまのれ

笑

兼好法師

同

# 梅

あつらふ雪のふくきいほじやた  
いまるいそそるの梅え 兼好

二六

慶運法師

同

# 霜

見よく風ハ決りなす肉所  
そあなく所いそあか 慶運

二九

二條家爲遠即

中納言爲定卿男正三位權大納言歌麿ノ宗匠  
永徳元年八月廿七日薨

二條家爲遠卿

中納言爲定卿男正二位權大納言歌鞠宗匠  
永徳元年八月廿七日薨  
新千載新拾遺新後拾遺新續古今集代々撰集作者

秋田

時々そと山田乃早苗はうく好お  
一層其志のりもしくんをく為遠

二條家爲重卿

左中將爲冬朝臣男從二位權中納言  
新後拾遺集撰者至徳二年二月十五日薨  
新千載新拾遺新續古今集等ノ作者

池菰

まゆのこもすまはうつじ池の  
うらまへしうらまへる有る見為重

畠山尾張守政長卿

從三位持國卿男叙從三位寬正五年任管領  
明應二年四月九日河內國於正覺寺自殺  
新菟波集作者

其ふ  
寸虫  
人  
子  
乃  
つ  
し  
は  
つ  
く  
は  
松  
山  
の  
人  
也  
と  
な  
り  
た  
國  
に  
先  
づ  
祀  
源  
政  
長

細川持之朝臣

右京大夫滿元朝臣男從四位下右京大夫永享四年補管領三十三  
嘉吉二年八月四日卒三十三  
新續古今集作者

秋  
末  
城  
野  
し  
の  
者  
之  
死  
も  
亦  
死  
て  
末  
城  
野  
也  
子  
の  
下  
焉  
し  
枯  
風  
之  
子  
也  
持  
之

更山段前名義成公

永享八年正月二日誕生文安三年十二月御名字定被為宸筆号義成宝徳三年四月十六日元服時十五歳  
同月廿九日補征夷大将軍宝徳三年八月任参議兼左近衛中将叙從四位下管領勝元共奉其行旌畫美

東山殿前名義成公

永享八年正月二日誕生文安三年十二月御名字定被為宸筆号義成宝徳三年四月十六日元服時十五歳  
同月廿九日補征夷大將軍宝徳三年八月任参議兼左近衛中将叙従四位下管領勝元供奉其行粧盡美  
享徳二年三月叙従一位同六月改名義政新菟玖波集作者賢語語載和論語

梅落衣

梅乃心よりひとあふぬ風の  
こそくひいひおしてしる見ぬや  
義成

法住院殿義澄公

従三位政知卿男東山殿為養子初名義通又改名義高  
文亀二年七月廿日改名義澄永正八年八月十四日薨  
賢語語載和論語

梅頭祀

木よりあらはるる  
花をいせぬはりあまし  
義澄

二階堂政行

下野守持行男左衛門尉從五位下上野國八山城主  
善和歌連歌嗜香道亮孝正徽宗祇志野宗信筆友孝範集及應仁記等載橋和歌  
贈答コ、ニハ略ス新菟玖波集作者

結衣

初冬  
結衣  
すはるきくきくきくきくきくきく  
あはれいんを  
三

伊勢貞宗朝臣

伊勢守平貞親朝臣男從四位下伊勢守  
新菟玖波集作者

初冬  
晴雨

初冬  
晴雨  
そらひびくきくきくきくきく  
あはれいんを  
三

上秋家被官備中守入道道真男伊豆守持資入道  
法名道灌号静勝軒智勇忠烈人世所知所ナリ

太田道灌

上秋家被官備中守入道道真男伊豆守持資入道  
法名道灌号静勝軒智勇忠烈人世ノ知所ナリ  
家集ヲ纂景集ト云

初花

古きこころに花乃志る露の憂  
父母よあはれなき母の心

川田玄清

細川家被官兵庫入道道法名玄清号帰牧庵  
好連歌又嗜和歌香道文龜元年五月名香合七内  
新菟玖波集作者

喜見  
か海  
は清き心  
あはれ  
初花  
の  
心  
海  
玄清

今川義元朝臣

修理大夫氏親朝臣男任駿河守  
永祿二年五月十九日尾羽於桶狭間戰死

樹陰

さしらの影とあはれまふまふ流るる  
夏月 風乃ひびくともあはれむ禮義

吉川元春

陸奥守元就四男称吉川治部少輔任駿河守  
天正十四年十一月十五日卒法名号海翁

秋

さすけりてあはれむ  
あはれむ初に元春

月留光秀

從五位下日向守



明智光秀

從五位下日向守  
天正十年六月十三日卒

為取松

うらぬれ越ゆる流あゝる  
はらとあゝる根河より此松秀

佐々成政朝臣

性陸奥守  
天正十六年五月十日撰列於尼崎自害

凶犯

嗚らそそ先本あゝるしに討  
わりぬみし乃極瓦形 成政

蒲生氏卿朝臣

右兵衛大夫賢秀男參議從四位下  
文祿四年二月七日卒

自  
ら  
成  
心  
以  
致  
無

七

豊臣勝俊朝臣

肥後守家定嫡男少将若狭守  
慶安二年六月十五日卒  
家集多举白集十云三十四種之名文載扶桑拾遺

若  
狭  
守  
家  
定  
嫡  
男  
少  
将  
若  
狭  
守  
勝  
俊  
朝  
臣

七

石川丈山

名八重之頑仙子大拙六々山人其外數字略之  
寛文十二年五月廿三日及九十歳

石川丈山

名六重之頑仙子大拙六々山人其外數字略之  
寛文十二年五月廿三日没九十歳

突發河をながりて  
顔のくといつまよ  
とよみ侍りける

わづらる瀬久の小河に流くとも  
老れ波うぬ影をえつ  
丈山

佐川田昌俊

俗称喜六姓六高階号不二山人  
寛永廿年八月三日没六十五歳

海上  
遠望

唐土乃くわやそん遠か  
和浦の沖よあり明れ月  
昌俊

澤庵和尚

諱宗彭芳冥之其余數多略之  
正保二年十二月十日寂七十三歲

浦月

いほつ浦の爰より月夜の  
しつと御ちの壇の海

江月和尚

諱宗玩号欠伸子其余略之  
寛永廿年十月朔日寂七十歲

細花行  
仙居

きまのちのいほつと  
るいあせのたの谷へ心懐

松花堂昭乗

石清水社僧龍本坊号惺々翁  
寛永十六年九月十六日寂五十六歳

善入作山  
充和尙

行かよふ心はほろけり  
あはれもなき心  
あはれもなき心の  
雲をよみかたむ

釋元政

日政日如妙子其余畧之  
寛文八年二月十八日寂四十六歳

晴述懐

いさよのくわあやう  
あはれもなき心の  
あはれもなき心の  
あはれもなき心の

林道春先生

字子信一名信勝林忠俗稱又三郎  
薙髮而稱道春為民部卿法印  
明曆三年正月廿三日卒七十三歲私謚文敏

# 池月

庭池瀲灩桂陰翻  
略約橫波夜不昏  
笑煞猕猴恃長臂  
百潭式月去無痕

道春

林春齊先生

道春二男字八子和名春勝林恕稱春齋  
号鶯峯為治部卿法印  
元和二年卒

# 上元觀燈

明燭無邊滿太虛  
高棚灯市百千餘  
月前花底蛾兒影  
不夜連城璧玉不如

春齋

那波活所先生

名方後胤改字六道圓惺窩門人道春上同門紀藩儒臣

那波活所先生

名方後胤改字八道圓惺窩門人道春上同門紀藩儒臣  
正保五年正月三日没五十四歲

九日城中觀

城裏秋花特地薰  
滿庭對石自生雲

泉石和某詩

綠潭蒼嶺起心匠  
風光似勸君  
活所

三宅亡羊先生

名八島字亡羊号寄齋好茶事又嗜香道  
慶安元年没七十歲

小田代

小田代自唯今口口言  
取常最深  
寄笑東風  
艾乞對月  
少  
新  
有  
長  
信

和氣明重朝臣

昇殿甲斐守正四位下施薬院使典薬頭  
祝髮而法名宗鑑應仁文明ノ比

夏

夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ

竹田昭慶法印

姓藤原山城守昌慶男号快翁昭慶ヲ定盛ト改名ス  
東山殿ノ法諱道慶ヲナケテチリ游於中華見明朝ノ天子本朝醫考ニ詳ナリ

夏

夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ  
夕ノ秋ハ名残ハ秋ノ影ヤ

言

右近將監孝信子初称米女寛永十三年初髮而  
叙法眼号探幽齋三十五寛文二年昇進法印六十歳



狩野守信

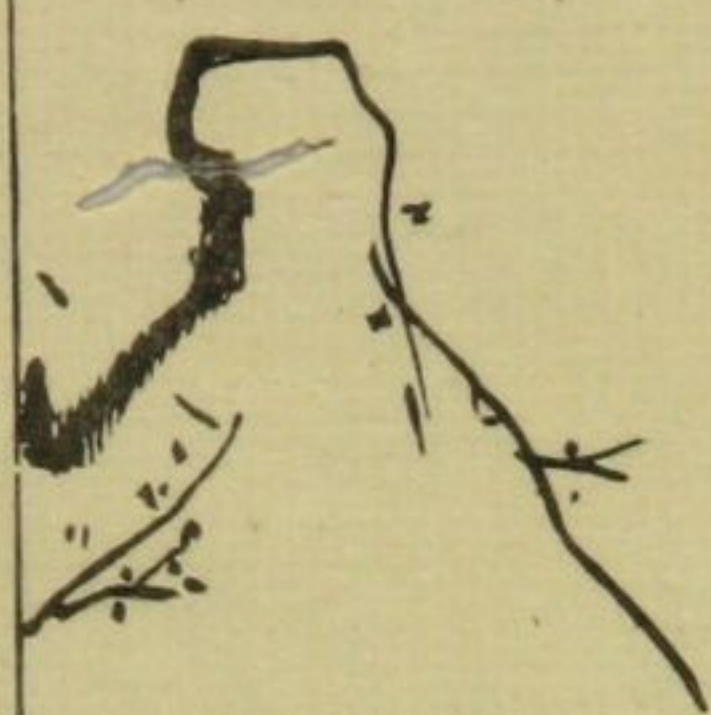
右近將監孝信子初称采女寛永十三年初髪而  
叙法眼号探幽齋三十五寛文二年昇進法印六十一歳  
延寶二年十月七日没這短冊下繪自画淡墨ヲ桃花圖アリ

桃花盛

いふ人城をよ侍つてはく桃に  
いふ子年のをまひ髪を  
守信

狩野益信

守信ノ義子初称采女祝髪而号洞雲叙法眼  
元禄七年正月八日没此短冊八歌ノ題自画彩画梅繪アリ



あつはるし雪よ一色お春也れ  
あつらふぬ木々のもあ  
益信

宗祇法師

身在佛地院

水きりし池のらりし所 宗祇

此句宗祇發句集出、新撰菟玖波集撰者  
文龜二年七月廿八日寂八十二歳

牡丹花

大いけりや、さるくは物時由家

久我家、辰子忌、元通秀公ノ庶子トモ云  
大永七年四月八日没八十五  
性好酒愛香併花為三愛自三愛記リ文龜元年五月名香合判者ナリ

利休居士

名六宗易号抛筌齋  
天正十九年二月二十八日自殺七十四歳七十トモ

立春

子年己卯八十歳之けくありき  
高津の故郷に去りて人なき

千道安

初紹安利休ノ男号眠翁  
天正十五年七月朔日没

山等雪

けりしはけりしとて  
雪にまじりて  
けりしとて

千宗且

元伯称今日庵号咄齋少庵宗淳ノ男  
万治元年十二月十九日没八十二歳

曉抄定  
抄之字

春宵斗窓間又奇祥  
秋本堂著下示曉  
抄今抄一校

同

春宵斗窓間又奇祥  
秋本堂著下示曉  
抄今抄一校

色蕉翁

名八挑青松尾氏初称宗房号夫々軒余八畧之

芭蕉翁

名八桃青松尾氏初称宗房号大々軒余八畧之  
元禄七年十月十二日没五十一歳

天

幸崎の松ありてはくを勝りて

天

宝井其角

名八晋号狂而堂  
寶永四年二月廿九日没五十五歳

天

ゆき花や 田舎の  
其角

天

天

服部嵐雪

号玄峯又雪中庵  
寶永四年十月十三日没五十四

誰娘きよの妻園よりかきりて  
瓦石

向井去來

名八兼時字八元洲号落柿舎  
寶永元年九月十日没六十二歳

祭の日

酔乱中

養之ほくし白以井

落柿舎去來

史姓年人乃まゝめふとる新嘉坡録冊の中十八号録り

先姑年人乃をくめふとて新編後集の中ハ十部を録り  
之を又出し水之記此記のきく遠く不承くは  
類号残魄を集と取し志を同小在居人より送り  
しそ子二めくりの昔とあるは如くはしきく同志の人  
其の如くより積篇を撰て出し百部から半さくはあり  
と傳は事一彼好乃未為惜をて是ふ人共は

弘化四のし三月

文新軒

貞園

号玄峯又雪中庵  
寶永四年十月十三日没五十四

誰娘きり書園くかき夕涼  
瓦片

向井去來

名八兼時字八元洲号落柿舎  
寶永元年九月十日没六十二歳

奈の目

酔乱中

羨ふほく白江

落柿舎と果

定法年人乃きめふとる所  
新獲冊の中ハ十部録り  
えとて出し水く記此以  
て遠ふ所くくは  
類号残魄を集と形一志を  
同小在所人多送り  
しそ子二めくりの昔と  
るるおふはまの同志の人  
はくめふより獲篇を撰之  
出し百部録りきくあり  
くはは事一彼好乃赤鳥  
惜をて是小人共目

弘化四のく三月

定新書園



